

大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	66	大学等名	千歳科学技術大学
テーマ	テーマV 卒業時における質保証の取組の強化		

【総括評価】

A：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

【コメント】

<優れている点>

- ・ディプロマ・ポリシーを軸とした3ポリシーの再設定を、学長主導の下、社会連携WGメンバーを中心とした全教員の議論により行ったことは評価できる。
- ・本改革の目玉である、学修成果の評価基準となる「CIST 質保証マップ」の構築を予定どおり進めている。「CIST 質保証マップ」については、全学教員が参画する6領域WGを中心に、外部委員の助言も取り入れて検討が進められており、各項目に対する卒業時における到達目標を定めるとともに、教員間で成績評価基準の統一を図る体制ができていることから評価できる。
- ・CBT教材整備の成果を大学間連携共同教育推進事業で築いたネットワークを活用して普及に努めている。また、eラーニングシステムが高大連携校56校及び20以上の大学で利用されていることも評価できる。さらに、他の理工系大学と連携してeポートフォリオの整備を進めており、IoT活用において先駆的なモデルの開発に努めていることも評価できる。
- ・選定時に付された留意事項への対応として、FD研修会参加率向上や領域WGの活動が教員の意識改革につながったこと、FDの継続的实施を計画していることは評価できる。今後はFDの内容をニーズに合致したものとすることが望まれる。

<改善を要する点>

- ・授業外学修時間については、学年毎・授業単位で調査結果の分析が必要である。学生の授業評価アンケートの頻度や内容の工夫により、各授業の課題が更に明確になると考える。
- ・「CIST 質保証マップ」における一般科目の適用率が低いので改善が必要である。
- ・事業の実施体制について、最終的な決定権限が不明確である。どの組織が最終決定機関か明確にする必要がある。
- ・卒業生追跡調査については、回答率向上だけではなく、就職先企業や研究室からの学生の質保証ニーズを含めて状況把握・分析に努めることが必要である。